

経営比較分析表（平成30年度決算）

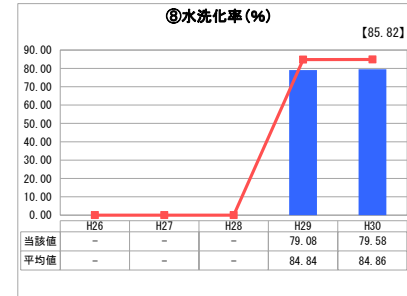
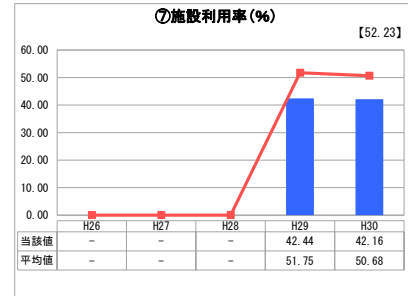
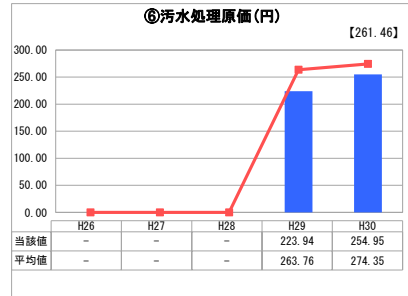
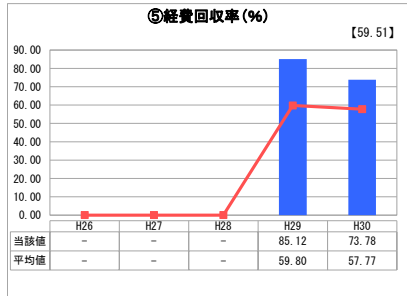
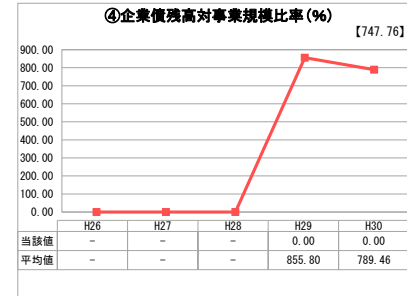
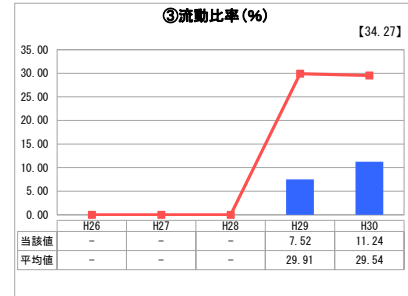
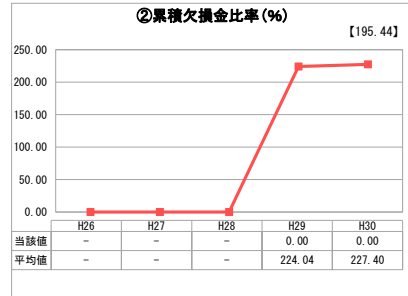
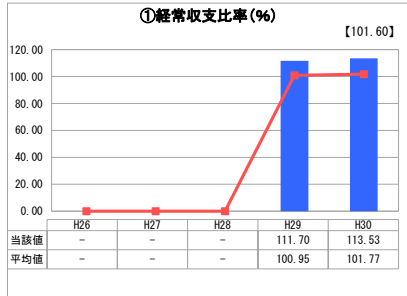
佐賀県 武雄市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	46.99	19.88	98.50	4,104

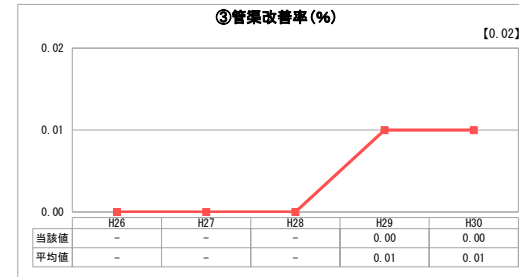
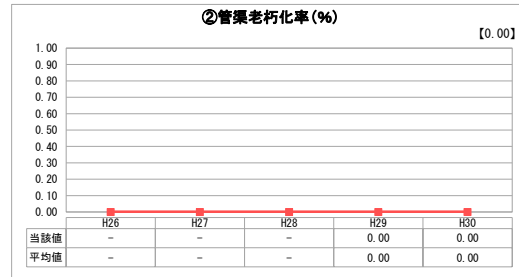
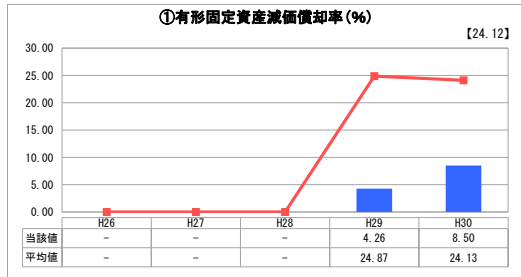
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,119	195.40	251.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,727	5.34	1,821.54

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・「経常収支比率」は、前年度比で微増であり、類似団体と比しても良好と言える。
- ・「累積欠損比率」は、前年度と変わらず0であるが、近年収入が微減傾向にあるのに対し費用が上昇傾向にあるため、将来に向けて検討の必要がある。
- ・「流動比率」は、前年度比で増加しているが、企業債償還額としてはピーク近くにある。ただし市の財政状況的に繰入が厳しくなることも考えられるため、将来に向けての検討が必要。
- ・「経費回収率」は、前年度比で減少しているが、類似団体と比較した場合は比較的良好と言える。ただし近年の費用の上昇傾向に注意する必要がある。
- ・「汚水処理原価」は、前年度比で増加しているが、類似団体と比して若干良いと言える。ただし地理的な要因によりマンホールポンプの設置数が多く、機器の老朽化に伴い、維持管理費が一気に増大することも予測されるため、今後の検討が必要である。
- ・「施設利用率」「水洗化率」は、前年度とほぼ変わらず横這いであるが、汚水処理人口減少の問題を抱えており、健全経営を継続するためにも、広域化等を含め今後の検討が必要である。

2. 老朽化の状況について

当市の農業集落排水事業は、平成11年から開始しており、市内8か所の処理施設は設置後11～20年を経過する。

「有形固定資産減価償却率」は、類似団体と比較してかなり低く、施設的には比較的新しいと言える。今後とも長寿命化を図りながら、適正管理に努める。

管渠の耐用年数は50年であることから、未だ老朽化には至っておらず、「管渠老朽化率」「管渠改善率」とも0となる。

全体総括

平成29年度より公営企業法の適用を受け、分析2年目であるため、傾向を示していると単純には言えないが、類似団体と比較した場合、比較的良好な経営状態にあるといえる。
下水道事業の健全経営を継続できるよう、接続率の向上に努め、経営戦略に基づいた長期的な視点で分析検討を行っていくことが重要となる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。